

ミャンマー視覚障害者自立支援事業（第2期）

中間報告添付資料 活動写真

ミャンマー医療マッサージトレーニングセンター2期生授業（2011年6月～）



解剖学授業：訓練生は視覚障害のため手の感覚が頼りになります。解剖学では骨格模型に触りながら骨の位置や形を確かめて勉強します。塩崎専門家（左端）、クンチャン専門家（真中後）。



マッサージ実習：マッサージは体で覚えることも必要なため、練習は欠かせません。訓練生はペアになり、お互いにマッサージを受けながら練習します。専門家が自らマッサージを受け指導する場合があります。

1期生集中講義（2011年7月～）



模擬授業：昨年、トレーニングセンターで学んだ1期生は、現在、母校で実習中です。集中講義は2ヶ月に一度行われ、実習のアドバイス等を専門家から受けます。模擬授業では専門家や訓練生仲間に実習の成果を示しました。訓練生（右端）と盲学校生徒達。



ディスカッション：ディスカッションでは、実習での課題や悩みを訓練生同士で話し合います。訓練生は皆、指導方法や生徒のことで苦勞をしています。話し合い、お互いに助言をしようことで問題解決方法を模索しました。

全国セミナー（2011年8月17日・18日）



講演：（セミナー1日目）

筑波技術大学の緒方先生による日本での視覚障害者の教育システムについて講演。参加者はミャンマーと日本の違いを感じつつ、興味深く聞いていました。



マッサージ実習：（セミナー1日目と2日目）

4人の先生によるマッサージ実技の指導。口頭でのマッサージの説明と個別には実際に手を取って指導をおこないました。訓練生は少しでも感覚をつかもうとし、四方八方から手が伸びてきました。

武藤短期専門家（左）、喜多嶋短期専門家（真中）、吉田短期専門家（右）。

マッサージ実習：マッサージの練習は二人組みになり、お互いにマッサージをし、感覚を確かめながら練習をしました。



公開講座（2011年9月6日～9日）



マッサージ実習：公開講座は盲学校の生徒だけでなく、地域の視覚障害者も参加して催されました。講師の畑短期専門家が実際に参加者にマッサージをすることでマッサージの感覚を指導しました。



マッサージ実習：参加者は熱心にマッサージの練習に励みました。参加者を見守る畑短期専門家（右上）。

マッサージ施設建設（2011年7月～）



マッサージ施設：地方の盲学校にはマッサージのための施設や部屋がない学校があります。マッサージ専用の施設を支援することでマッサージの授業が円滑に行われ、地域の人に医療マッサージを提供します。そして医療マッサージが普及し、視覚障害者の地位向上を目指します。完成間近のパコック盲学校マッサージ施設（左上）。完成したメッティエラ盲学校マッサージ施設（右上）。メッティエラ盲学校マッサージ施設でのテープカット（左）。